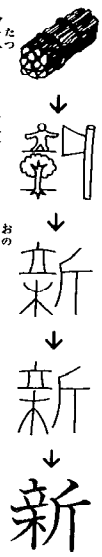


# 新

三年 13  
筆順 シン  
あたらしい・あらいたにい

成り立ち



「立」と「木」と「斧」のいみの「斤」とをくみあわせてつくった字で、「立ち木を斧できって「薪」をつくること」をあらわした字です。「薪」という字のものと字です。

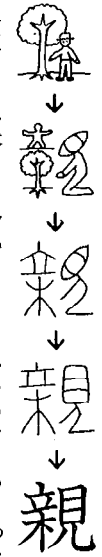
枯れた古い木でも、薪のきり口は「あたらしい」ものですから、「新」という字は「あたらしい」といういみにつかわれました。そのため、「薪」という字がつけられました。

「この字は正しくは「新」で、「辛」と「木」と「斤」との会意・形声字である。しかし、二年生にわざわざ、古い字形を示して説明したら、かえって間違いのもとと考へ、今の字形に従って説いた。㊦「旧」、「古」

# 親

二年 16  
筆順 シン  
おや・したしい・しむ

成り立ち



「立」と「木」と「見」とをくみあわせてつくった字です。「立ち木はどこにもあって、見なれたもの」であり、人には「したしい」そんないのです。

たびする人も、はたらく人も、休むときには木の下をえらびます。立ち木は人にとって、とても「親しい」ものであり、「親しむ」べきものです。

人にとって「ばん」親しい人」は「おや」です。だから「親」を「おや」と読むわけです。

▽新築のいえに新品のかぐ、そこで新年をむかえるのですから、新鮮なところになるのはあたりまえです。  
▽なつは新緑、ふゆは新雪をもとめてたびをたのしんでいます。

熟語例

- ▽新築 (新しくいえを建築すること。)
- ▽新品 (新しい品物のこと。)
- ▽新年 (新しい年。年のはじめ。一年は正月からはじまり十二月でおわります。正月のこと。)
- ▽新鮮 (鮮はとりたての魚。生きのよい魚。新しくて生き生きしていること。)
- ▽新緑 (わかばの緑。なつのはじめ、新しくつけた緑の葉のこと。をいいます。)
- ▽新雪 (新しくふった雪。)
- ▽革新 (革は「改める」こと。古いものを改めて新しくすること。改新ともいいます。)
- ▽温故知新 (故きを温め新しきを知る。古いものごとをよくしらべ、見なおしていると、新しい発見があるものである、というおしえ)

使い方

▽親友はさずかるものではなくて、つくるものです。友だちに親切にしている中から、しぜんと親友がうまれてくるとおもいます。

熟語例

- ▽親友 (親しい友だち)
- ▽親交 (親しく交わること。)
- ▽親類 (類はななま。「親とのつながりのある人たち」といういみのこと。親族。近親)
- ▽親族 (族は「ななま」。親、きょうだい、おじ、おば、おい、めい、いとこなど)
- ▽親密 (親しさがきわめてつよいこと。きわめてなかがよいこと。)
- ▽親切 (切は「きわめて」。きわめて親しみのこもったおこない。「おもいやりのこころがふかい」こと。)
- ▽親善 (善は「ななま」。「いみ。親しんでななまよくすること。ななまよく親しむこと。)
- ▽親しき中にも礼儀あり (親しいものにはわがままになりがちで、礼儀にはずれたおこないをしやすいため、ゆういしなければいけない、というおしえです。)